

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 公開特許公報(A)

(11) 特許出願公開番号

特開2005-263657

(P2005-263657A)

(43) 公開日 平成17年9月29日(2005.9.29)

(51) Int. Cl.<sup>7</sup>

A61K 9/70

F1

A61K 9/70 401

テーマコード(参考)

4C076

審査請求 未請求 請求項の数 1 OL (全6頁)

(21) 出願番号 特願2004-75779(P2004-75779)  
(22) 出願日 平成16年3月17日(2004.3.17)

(71) 出願人 591189052  
株式会社トクホン  
東京都中央区日本橋本町4-1-2  
(71) 出願人 000227951  
ウェーブロックホールディングス株式会社  
東京都中央区明石町8番1号  
(74) 代理人 100060690  
弁理士 瀧野 秀雄  
(74) 代理人 100097858  
弁理士 越智 浩史  
(74) 代理人 100108017  
弁理士 松村 貞男  
(74) 代理人 100075421  
弁理士 垣内 勇

最終頁に続く

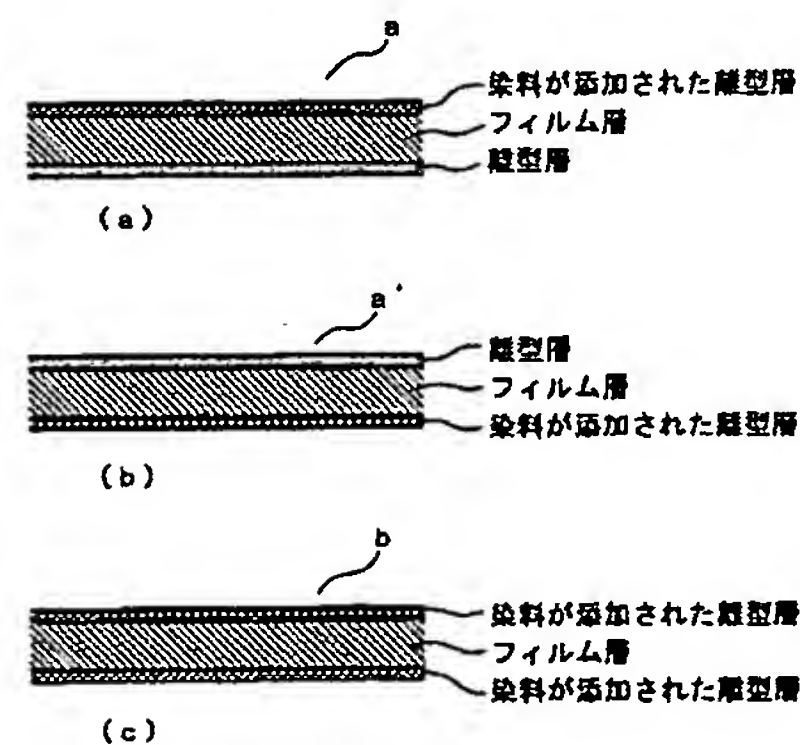
(54) 【発明の名称】 貼付剤用両面離型フィルム

(57) 【要約】

【課題】実用的で、視認性に優れ、「清潔感」「クリーンさ」のイメージを損なうことのない貼付剤用両面離型フィルムを提供する。

【解決手段】透明なプラスチックフィルムの両面に離型層が設けられた貼付剤用両面離型フィルムであって、少なくとも一方の離型層が顔料または/及び染料を有している貼付剤用両面離型フィルム。

【選択図】図1



BEST AVAILABLE COPY

## 【特許請求の範囲】

## 【請求項1】

透明なプラスチックフィルムの両面に離型層が設けられた貼付剤用両面離型フィルムであって、少なくとも一方の離型層が顔料または／及び染料を有していることを特徴とする貼付剤用両面離型フィルム。

## 【発明の詳細な説明】

## 【技術分野】

## 【0001】

本発明は、薬効成分を有する粘着薬剤からなる層が支持体層によって支持されてなる貼付剤の粘着薬剤表面を保護するための離型フィルムに関し、特にプラスチックフィルムの両面に貼付剤を粘着させる貼付剤用両面離型フィルムに関する。

## 【背景技術】

## 【0002】

編織布または不織布などの通気性と柔軟性とを有する素材からなる支持体層の片面に経皮消炎鎮痛剤や湿布剤（温湿布や冷湿布）などの薬効成分を含む粘着性組成物からなる粘着性薬剤層を設けた貼付剤は、家庭薬なども含め広く用いられている。

## 【0003】

これら貼付剤は、使用直前までその粘着性薬剤層側表面は離型紙あるいは離型フィルムで保護されていて、使用時にこれらから剥がされて用いられる（特開2001-245918公報（特許文献1）、特開2001-258926公報（特許文献2）、特開平8-112305公報（特許文献3）参照）。ここで、現在では透明な離型フィルムの方が離型紙に比べて「清潔感」「クリーンさ」の点で好印象を与えるので、より多く、透明な離型フィルムが使われるようになっている。このような離型紙、離型フィルムは、貼付剤を剥がした後、床に落としてしまう場合がある。

## 【0004】

このとき、透明な離型フィルムは見つけにくく、さらに、その離型面はシリコーン処理によりすべり性が高いので、そのまま放置された場合には人が踏みつけて転びやすく、さらに病院などでは松葉杖利用者が、この離型フィルムの上に松葉杖を突いて事故が発生するなど多くの問題が生じる。そこで、離型フィルムは離型面とはしない面に印刷を施し、視認性を向上させているのが一般的である。

【特許文献1】特開2001-245918公報

【特許文献2】特開2001-258926公報

【特許文献3】特開平8-112305公報

## 【発明の開示】

## 【発明が解決しようとする課題】

## 【0005】

しかしながら、比較的小型の貼付剤の場合には、2枚の貼付剤を両面離型フィルムを挟んで貼り合わせた形状で供給されることが多い。このような両面離型フィルムは、一般に、透明なプラスチックフィルムの両面にシリコーン類を塗布して離型層を形成して作製される。このため、プラスチックフィルムの離型層を形成しない面に印刷を施すと云う通常の手段を採ることができない。

## 【0006】

ここで、離型層上に印刷しようとしてもインクがはじかれてしまうので印刷できない。一方、印刷面の上に離型層を設けた場合には印刷がにじみ不鮮明となり、その結果、使用者の商品に対する印象が悪化するおそれがある。また、印刷層の上に保護層を設け、その保護層の上に離型層を設けることによりこれら問題を解決することは可能となるが両面離型フィルムとしての価格が高くなり、実用的でなくなると云う別の問題が生じる。

## 【0007】

本発明は、これら問題点を改善する、すなわち、実用的で、視認性に優れ、「清潔感」「クリーンさ」のイメージを損なうことのない貼付剤用両面離型フィルムを提供すること

を目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0008】

本発明の貼付剤用両面離型フィルムは上記課題を解決するため、請求項1に記載の通り、透明なプラスチックフィルムの両面に離型層が設けられた貼付剤用両面離型フィルムであって、少なくとも一方の離型層が顔料または／及び染料を有している貼付剤用両面離型フィルムである。

【発明の効果】

【0009】

本発明の貼付剤用両面離型フィルムはその特有の構成により、低コストでの生産が可能であり、床に落ちたときにも容易に見え、思いがけない事故の原因となることが予防される。

【発明を実施するための最良の形態】

【0010】

本発明における透明なプラスチックフィルムとしては、離型フィルムとして取り扱い可能であれば、厚さ、材質に制限がなく、特に厚さは一般にシートとして分類されるような厚さのものであっても良い。なお、「清潔感」「クリーンさ」のイメージに直結するため、不透明や半透明などのものではなく、透明なものであることが必要である。

【0011】

本発明の貼付剤用両面離型フィルムは、両面離型である必要があるため、離型層はプラスチックフィルムの両面に設ける必要がある。この離型層は原則、従来からの貼付剤用両面離型フィルムの形成方法、一般的にはシリコン系離型剤塗布による。ただし、この際、少なくとも1層の離型層に顔料または／及び染料を配する。すなわち、塗布前のシリコン系離型剤に顔料または／及び染料を、混練などの方法で混合し、得られた着色したシリコン系離型剤を用いて、離型層を形成する。なお、用いる顔料、染料は、医薬的に用い得るものから選択する必要がある。さらに、その離型剤への添加濃度は最終的に得られる貼付剤用両面離型フィルムで十分な着色効果が得られる範囲である必要がある。

【0012】

本発明の貼付剤用両面離型フィルムの構成を、イメージ断面図を用いて説明する。図1には3種類（実質2種類）の本発明に係る貼付剤用両面離型フィルムのモデル断面図を示した。図1（a）には上面の離型層にのみ染料が添加された両面離型フィルムaを、図1（b）には下面の離型層にのみ染料が添加された両面離型フィルムa'（両面離型フィルムaの上下が逆になったもの）を、図1（c）には両方の離型層に染料が添加された両面離型フィルムbを、それぞれ示す。

【0013】

このような両面離型フィルムは図2にモデル的に示すようにして用いられる。すなわち、図2は粘着剤層と支持体層とを有する貼付剤2つを互いの粘着剤層同士が内側になるようにして、上記貼付剤用両面離型フィルムaを挟んで貼り合わせた状態を示す図である。

【0014】

なお、図2の例では両面離型フィルムaは貼付剤の引きはがしが容易であるように貼付剤より大きいものを用いている。また、図2では粘着剤層と支持体層とからなる貼付剤での例を示したが、粘着剤層と支持体層との間に両者の密着性を向上させるためのアンカーコート層を設けた貼付剤を用いても良い。

【実施例】

【0015】

以下に本発明の貼付剤用両面離型フィルムの実施例について具体的に説明する。

【0016】

厚さ50 $\mu$ mの透明な2軸延伸ポリエチレンテレフタレートフィルムの片側に、シリコン系離型剤1.2重量%、フタロシアニン系青色顔料0.2重量%、溶媒としてメチル

エチルケトン70重量%、トルエン28重量%からなる離型層コート剤を乾燥重量が1.0 g/m<sup>2</sup>となるようにグラビアロール法で塗布、乾燥、熱処理を行い、顔料を有する離型層を設け、さらに反対の面に同様の方法で乾燥重量が1.0 g/m<sup>2</sup>の顔料を有する離型層を設け、顔料が配された離型層を2面有する、本発明に係る両面離型フィルムcを得た。

【0017】

この本発明に係る両面離型フィルムcの着色は、視認観察の結果、全面に亘って均一な青色半透明であることが確認された。また、この両面離型フィルムcはフタロシアニン系青色顔料を用いずに作製した従来技術に係る両面離型フィルムdと同等の、貼付剤に対する離型性が得られ、全く同様の取り扱い性であったが、白いタイルの床やクリーム色のビニルタイルの床などに落とした際には非常に見つけやすかった。

【0018】

また、厚さ50 μmの透明な2軸延伸ポリエチレンテレフタレートフィルムの片側にフタロシアニン系青色インキにてグラビアロール法により全面印刷を施した後、他方の面に上記実施例で用いたのと同様の、ただしフタロシアニン系青色顔料が添加されていない離型層コート剤で顔料を有しない離型層を形成し、さらに印刷面の上にも同様に顔料を有しない離型層を形成し、比較例に係る両面離型フィルムeを得た。

【0019】

この両面離型フィルムeの着色は視認観察の結果、青色半透明であったが、幅方向、長さ方向で色調が大きく変動しており、全体に流れスジが見られ、商品価値のないものであった。また、面の違いによる貼付剤の離型性が大きく異なり、印刷層の上に施された剥離面での必要な剥離力は印刷層のない面に施された剥離面で必要な剥離力の4倍ないし8倍と極めて大きく、そのため極めて取り扱いにくいと云う結果が得られた。

【産業上の利用可能性】

【0020】

本発明の貼付剤用両面離型フィルムは、実用的で、視認性に優れ、「清潔感」「クリーンさ」のイメージを損なうことのない貼付剤用両面離型フィルムである。

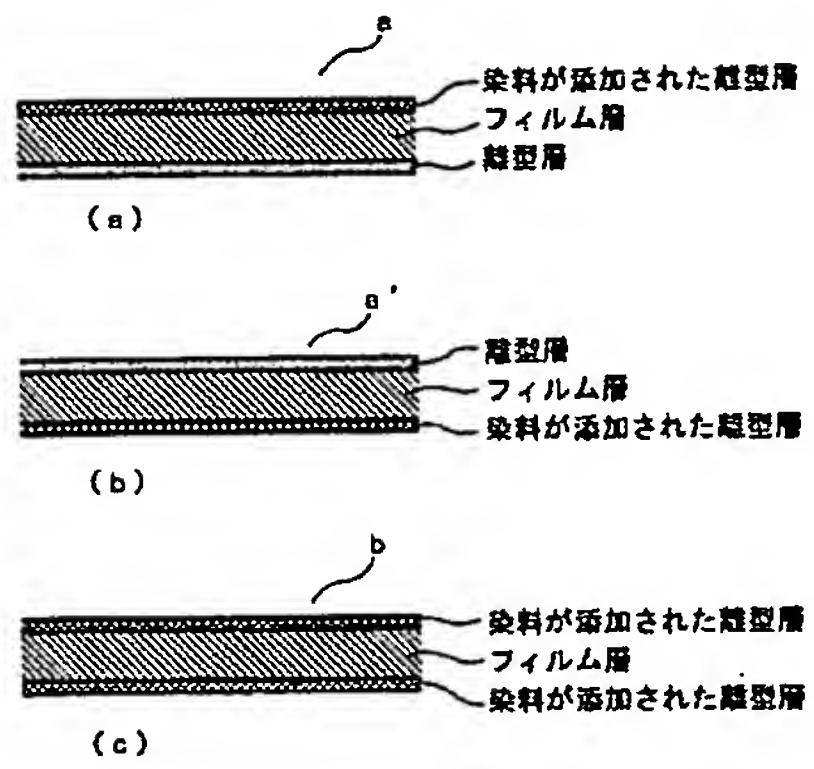
【図面の簡単な説明】

【0021】

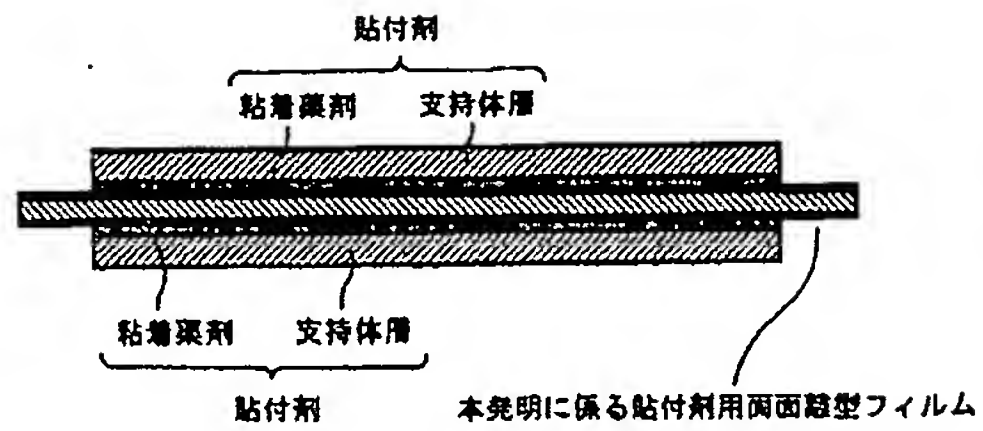
【図1】本発明に係る貼付剤用両面離型フィルムの例の断面を示すイメージ図である。(a)上面の離型層にのみ染料が添加された両面離型フィルムaを示す図である。(b)下面の離型層にのみ染料が添加された両面離型フィルムa' (両面離型フィルムaの上下が逆になったもの)を示す図である。(c)両方の離型層に染料が添加された両面離型フィルムbを示す図である。

【図2】上記両面離型フィルムaの両面に貼付剤を配した状態を示す断面図(イメージ図)である。

【図1】



【図2】



- (72)発明者 佐々木 康彦  
埼玉県草加市草加1-2-20
- (72)発明者 折原 正道  
埼玉県南埼玉郡宮代町字逆井213-2
- (72)発明者 荒井 博  
群馬県邑楽郡板倉町大字下五箇1893
- (72)発明者 ▲高▼月 広紹  
東京都中央区勝どき3丁目12番1号 日本ウエーブブロック株式会社内
- Fターム(参考) 4C076 AA80 BB31 EE01A FF53